

# 伝統芸能「勝坂神楽」の継承：AIの視点から継承を検証する

浜松学院大学 現代コミュニケーション学部

指導教員：教授 津村公博

非常勤講師 田島喜代美

参加学生：内野里穂

古水しおり、大石悠月 加子康太

河守創汰、小柳協

太田亮大、桂碧莉、加藤穂佳

杉山嘉隆、田中美有、一木大樹

植田彩香、後藤志月

サグンケントウィリアムギルエスピノサ

鈴木蒼生、鈴木琉生、福田拓哉

前田夢稀、望月康作

## 1 要約

本研究は、映像編集とAI技術を統合し、市指定無形民俗文化財「勝坂神楽」の継承と普及を目指すものである。勝坂神楽の音声や説明文をテキスト化し、AIを活用して舞の動きや特徴を分析・解説するとともに、音声解析や自然言語処理技術を用いて詳細で分かりやすい教材を作成する。この教材を基に、気田小学校、犬居小学校、春野中学校で児童生徒向けの学習コンテンツを提供し、その教育効果を授業で評価・改良する。さらに、SNSやウェブサイトによる情報発信や伝統芸能コミュニティの形成を通じて、勝坂神楽の認知度向上と次世代担い手の育成を図り、持続可能な仕組みの構築を目的とする。

## 2 研究の目的

本研究は、浜松市の無形民俗文化財「勝坂神楽」の存続と普及を支援するため、AI技術を活用した舞の動きや特徴を分析・解説し、詳細でわかりやすい映像教材や学習コンテンツを開発・提供することを目的とする。また、小中学生を対象とした教育効果の向上を図るとともに、SNSやウェブサイトを活用した情報発信や伝統芸能コミュニティの形成を通じて、次世代の担い手を育成し、持続可能な仕組みを構築することを目的とする。

## 3 研究の内容

勝坂神楽	実施日	10月27日(日)	実施場所	浜松市天竜区春野町勝坂集落
	参加人数	20人	活動種別	大学生による継承活動、アドボカシー活動、勝坂神楽配信
	内容	清水神社、八幡神社で行った幣舞やほろ舞、移動中に行う道中舞の様子をYouTube上でライブ配信		

### アドボカシー活動

市民交流フェスタ2024～みんなで学ぶSDGs～	実施日	9月21日・22日	実施場所	イオンモール浜松志都呂
	参加人数	47人	活動種別	アドボカシー活動
	活動内容	ワークショップを開催し、参加児童に勝坂神楽の舞の動きをAIで再現して、その魅力を伝えた。モンスターマッシュ（3Dモデル作成アプリ）、ブレンダー（3DCGソフト）を活用した参加型伝承活動を実施した。		
サ・山フェス	実施日	10月19日	実施場所	ブレ葉ウォーク浜北
	参加人数	50人	活動種別	アドボカシー活動
	活動内容	ブースでは、VRoid Studio（3Dキャラクター制作ソフト）およびMocopiを利用したモーションキャプチャーによる伝承活動を実施した。一方、ステージでは最終ステージにて道中舞を披露した。		

## 継承活動

気田小学校 天竜区春野町	実施日 11月29日	実施場所 天竜区春野町
	参加人数 34人	活動種別 次世代への継承
活動内容		
勝坂神楽の歴史や特徴を視覚的に伝えるため、デジタル教材を使用した。この教材はクイズ形式で構成され、選択肢問題や○×問題を通じて、参加児童は楽しみながら解答した。また、モーションキャプチャー技術により再現した勝坂神楽の舞の動きを、指導教材として用いた。		
犬居小学校 天竜区春野町	実施日 令和7年2月8日	実施場所 天竜区春野町
	参加人数	活動種別 次世代への継承
内容 AIを活用した勝坂神楽の継承活動（予定）		
春野中学校 天竜区春野町	実施日 令和7年2月18日	実施場所 天竜区春野町
	参加人数 51人（全生徒）	活動種別 次世代への継承
内容 勝坂神楽の継承活動（予定）		
河輪小学校 中央区東町	実施日 7月5日	実施場所 湖畔の家ポート場（浜松市天竜区）
	参加人数 31人（5年生）	活動種別 次世代への継承 アドボカシー活動
	教員5人、保護者2人	
	活動内容	
遠州浜から程近い中央区東町にある河輪小学校の児童は、勝坂神楽の歴史や神楽の形態や特徴に感銘を受けていた。花笠作りや舞の稽古にも積極的に取り組んだ。		

## アート活動

「勝坂神楽企画展」勝坂神楽ジオラマ制作	実施日 9月21日～1月19日	実施場所 春野歴史民俗資料館
		活動種別 アドボカシー活動
活動内容		
情景作家・山田卓司氏の監修のもと、勝坂神楽を題材としたジオラマを制作した。この作品は春野民俗歴史資料館で開催された「勝坂神楽企画展」に展示された。本企画展では、勝坂神楽の概要や継承活動を紹介するパネル展示のほか、舞で使用される道具類も展示された。市内外の児童生徒が参加し、メディアにも取り上げられた。		
浜松子ども館	実施日 3月21日	実施場所 浜松こども館
	参加人数（30人予定）	活動内容 次世代への継承 アドボカシー活動
	活動内容 AIを活用した勝坂神楽の継承活動（予定）	

## 4 研究の成果

### (1) 当初の計画

本研究では、AI技術を活用し、浜松市中山間地域の伝統芸能「勝坂神楽」の魅力を伝えるために、映像編集技術とAIを統合して神楽の重要な動きや要素を視覚化し、音声解析と自然言語処理で舞を分かりやすく分析するとともに、若い世代向けの教材コンテンツを設計し、さらにSNSやウェブサイトでの情報発信やオンラインコミュニティの形成を通じて、伝統芸能の魅力を広く発信することを目指した。

### (2) 実際の内容

AI技術を活用し、勝坂神楽の舞や特徴を分析し、それを基に映像教材を開発し小中学校で活用することができた。児童生徒が楽しみながら伝統芸能を学べる環境を整備するとともに、地域全体で伝統文化を支えるコミュニティ形成やオンラインプラットフォームを通じ、地域の小中学校を中心に新たな関心層の取り込みに成果を挙げた。

A 理由：勝坂神楽の映像と音声データを記録し、AI技術を活用した継承データの教材化については、十分に成果を出したとは言えないが、これからのAI活用の端緒となった。また、SNSやLMSを活用した情報発信とコミュニティの形成は実現することができた。

### (3) 実績・成果と課題

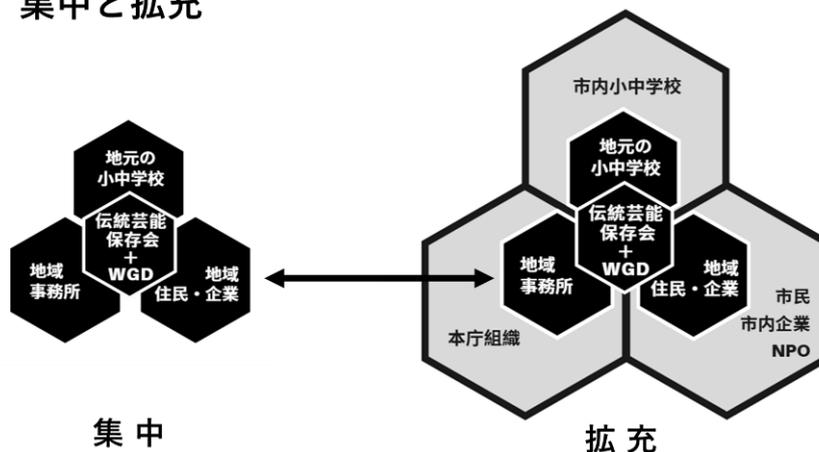
本研究では、勝坂神楽の継承と普及を目的に、映像編集とAI技術を活用した教材開発や情報発信を進め、小中学生向けの教育コンテンツとしては高い評価を得て地域内外の関心を集め、SNSやウェブを通じた情報発信やコミュニティ形成も実現した一方で、AI技術の解析精度向上や音声解析の深化、さらに他世代や地域外への普及、オンラインとオフライン活動の連携強化など、持続可能な仕組みの確立に向けた課題が残されている。

### (4) 今後の改善点や対策

今後の地域の伝統芸能継承プラットフォームの構築においては、伝統芸能が継承されてきた地域に根ざした地元の公的機関や小中学校、地域住民、地域の店舗や企業など、多様なステークホルダーと連携を図る必要がある。同時に地域の伝統芸能を市や県全体で取り組むことができるよう、これまでの集中からステークホルダーの拡充を同時に構築することが求められる。



## 集中と拡充



### 参考資料

#### 自己評価

評価は1から5の5段階評価であり15名が評価に参加した。評価は平均値ではなく最も多くの評価が集まった得点（1～5）を記載する形式とした。以下に各項目の評価結果を示す。

No	評価項目	評価	分析
1	映像編集とAI技術の統合	3	映像編集とAI技術の統合には課題が残った。時間や予算にも制約があった。今後、AI技術の精度向上によって、神楽の魅力をより効果的に伝えることができると考える。
2	音声解析と自然言語処理の応用	3	勝坂神楽の音声解析や解説文の生成を目的とした取り組みが基礎的な段階に留まった。
3	教材コンテンツのデザイン	5	勝坂神楽の魅力を小学生に伝えるための教材は、視覚的に訴求し、小学生の関心を引くのに効果的であった。
4	SNSやLMSを活用した情報発信とコミュニティ形成	5	次世代の小学生・中学生が興味を持つコンテンツを発信することで、勝坂神楽の継承活動に参加する新たな担い手呼び込むことができたと考える。
<b>全体評価</b>			
今回の取り組みでは、技術活用とコンテンツ設計、情報発信の各面において成果が見られた。特に教材コンテンツのデザイン（評価5.0）やSNSを活用した情報発信（評価5.0）は、高い評価を得ており、次世代の関心を引きつける効果的な方法であった。一方で、映像編集とAI技術の統合（評価3.0）や音声解析と自然言語処理の応用（評価3.0）については、課題が残った特にAIモデルの精度向上や、リソースの制約（時間・予算・人材・設備）を克服する必要性が示された。これらの分野では、さらなる技術的進展が期待される。総じて、教材設計や情報発信では大きな成果を上げた一方で、技術の統合や応用の面では今後の発展に向けた課題が明確となった。これらの課題を克服することで、勝坂神楽のさらなる魅力向上と継承活動の強化が期待される。			

## 5 課題提出者・地域への提言

勝坂集落に創設された、旧勝坂小学校は1968年に閉校し、豊岡小学校に統合されたが、豊岡小学校も1980年に閉校し、現在は気田小学校（児童数50人）に統合されている。また、近隣の犬居小学校の児童数は32人であり、気田小学校および犬居小学校の児童は春野中学校（生徒数52人）に進学する。

このような状況の中、勝坂神楽は3校の小中学校における総合学習の時間を活用して継承活動を実現している。今後もこれらの学校を軸に継続的な取り組みを推進しつつ、天竜区の現状を浜松市全体に共有し、さらにAI技術を活用しながら市内全体で継承活動を展開していくことが重要であると考えられる。

## 6 課題提出者・地域からの評価

浜松市立気田小学校堀部憲一校長から、児童への継承活動について大きな評価を得た。また、学校教育において、地域社会全体での伝統文化に対する関心を高め、教育現場における効果的な活用が期待されると述べた。

## 7 参考資料

<p><b>継承活動 幣づくり</b></p>	<p><b>継承活動 オンライン稽古</b></p>	<p><b>継承活動 勝坂神楽</b></p>
		
<p><b>配信 勝坂神楽 当日</b></p>	<p><b>次世代への継承 河輪小学校</b></p>	<p><b>次世代への継承活動 気田小学校</b></p>
		
<p><b>AI活用 3Dアニメーション</b></p>	<p><b>AI活用 モーションキャプチャー</b></p>	<p><b>AI活用 アバターとモーションキャプチャー</b></p>
		
<p><b>アドボカシー活動 山フェス</b></p>	<p><b>アドボカシー活動 山フェス</b></p>	<p><b>アドボカシー活動 市民交流フェスタ</b></p>
		